

学力向上フロンティアスクール事業中間報告書

都道府県名	鳥取県
-------	-----

、学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	岸本町立岸本中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	3	1	8	18
生徒数	79	79	113	1	272	

、実践研究の概要

1、研究主題

「確かな学力の向上を目指して」  
～基礎基本の定着と自ら学び自ら考える力の育成～

2、内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・14年度は全学年・数学科で実施  
(数学科は、「個に応じ、個を生かす授業」を主題として、平成7年度よりTTの研究に取り組み、その研究の一環から平成11年度より習熟度別指導、少人数指導の実践研究に取り組んできた実績があり、本研究テーマの先行的研究教科として位置づけた。)
- ・15年度・16年度は全学年・全教科で実施  
(学力向上を学校体制で取り組むために全学年・全教科での実施とした。)

**【研究内容】**  
 基礎基本の確実な定着を図るための指導体制や指導方法の工夫。  
 学ぶ楽しさが体験でき、自ら考え自ら学ぶ力を育てる授業の創造。  
 指導に生かす評価の工夫。  
 学習環境の整備および学びの機会の充実と習慣化を図る。  
 教科指導における小中連携の推進。

(2) 年次ごとの計画

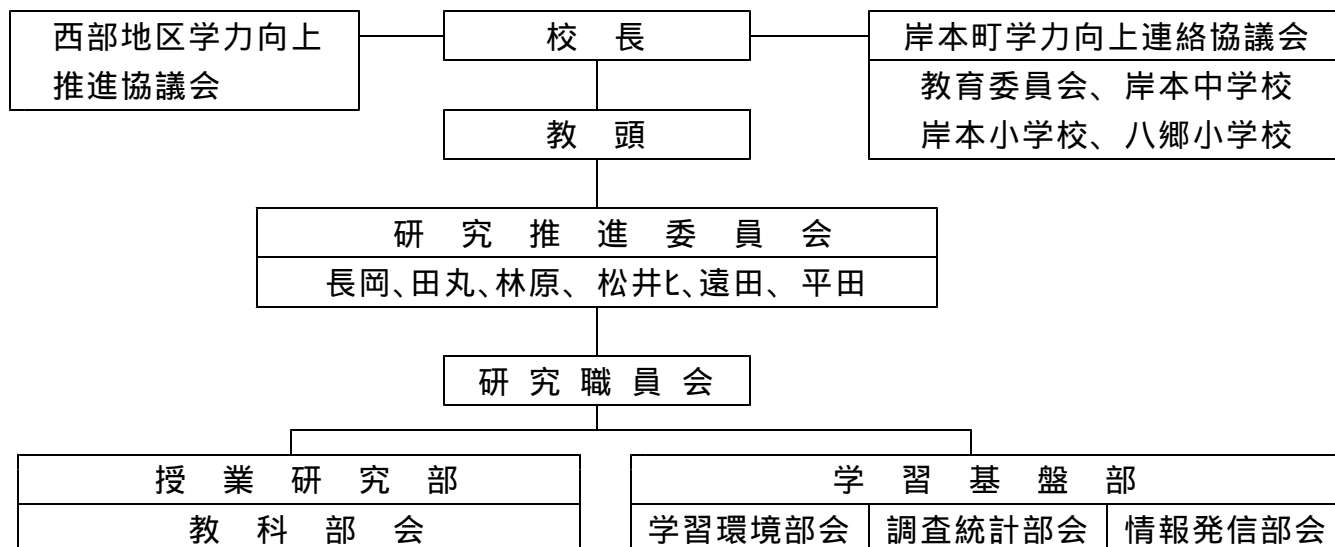
平成14年度	主題 「数学科における確かな学力の育成」 研究の見通し ・習熟度に応じた指導や少人数指導により、きめ細かな指導を充実させることで、学習意欲が向上し、基礎基本をしっかりと身につけさせることができると考えられる。 ・数学的な活動を取り入れることで、学ぶ楽しさが体験でき、自ら学び自ら考える力を育成することができると考えられる。 ・評価規準を生かした授業づくりがなされ、迅速で的確な評価が行われることで、個別指導が充実するとともに授業改善が促進されることが考えられる。 研究内容・方法 (1) 1学年と3学年は、学級を習熟の程度に応じて3つのコースに分けて
--------	---

	<p>少人数指導する。2学年は、3学級からなる学年を習熟の程度に応じて4つのコースに分けて指導する。</p> <p>(2) 好奇心をかき立て発展性のある教材を開発し、観察、操作、実験を取り入れた授業を実践していく。また、教科書の教材を扱う際にも数学的な活動の視点を積極的に取り入れていく。</p> <p>(3) 評価規準を生かした授業づくりに徹し、少人数指導の利点を生かした観察法や、小单元ごとの評価テストを利用して迅速かつ的確に評価を行い、授業改善や個別指導を促進する。</p>
--	--

平成15年度	<p>主題 「基礎基本の確実な定着」</p> <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分かりやすい授業を実践し、個に応じた指導方法や指導体制を工夫し、きめ細かな指導をすれば、基礎基本の定着をより確かなものにできると考えられる。</li> <li>・ 各教科で、評価規準を生かした授業づくりに徹し、的確で迅速な評価が行われることによって、授業改善や個別指導が促進され、確かな学力を身につけさせることができると考えられる。</li> <li>・ 学習規律を徹底し、学習習慣の定着を促す取組をすることで、基礎基本の定着を確かなものにできると考えられる。</li> </ul> <p>研究内容・方法</p> <p>(1) 教科部会の定例化と活性化を図り、目標を明確化した分かりやすい授業づくりと、きめ細かな指導の方法、評価の工夫を教科部会の中心課題として、授業改善を促進していく。</p> <p>(2) 教科部会ごとに校区の小学校と連携し、授業研究会や小中教師の協力授業等の実践を通して、指導力を高めていく。</p> <p>(3) 学習規律の徹底と学習環境の整備を進め、より一層集中して学習に取り組むための環境を整える。また、朝読書の習慣化や家庭学習の習慣化、放課後の個別指導等、学びの機会の充実と学びの習慣化を推進していく。</p>
--------	--

平成16年度	<p>主題 「自ら学び自ら考える力の育成」</p> <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体験的な学習や問題解決的な学習を導入することで、学ぶ楽しさが体験でき、自ら学び自ら考える姿勢が育つと考えられる。</li> </ul> <p>研究内容・方法</p> <p>(1) 体験的な学習や問題解決的な学習の創造を、教科部会の中心課題として検討し、授業実践をしていく。</p> <p>(2) 教科書の教材を扱う際に、学習意欲、思考力、判断力、表現力を一層重視した授業展開を工夫していく。</p> <p>(3) 選択教科等で、体験的な学習や問題解決的な学習を導入し、学ぶ楽しさを体験させ、自ら学び自ら考える姿勢を育てていく。</p>
--------	--

### ( 3 ) 研究推進体制



学習環境部会...学習規律や学習習慣の確立、学習環境の維持改善。

調査統計部会...教育課程の工夫、諸検査や実態調査の実施・分析、研究成果の測定。

情報発信部会...保護者への啓発、ホームページの作成、情報の収集、分析、広報。

，平成15年度の研究成果及び今後の課題

#### 1 ， 研究の成果

今年度より全教科での取組にしたことで、教師の授業改善への意識が非常に高まったことが大きな成果としてあげられる。教頭を含む全教員が、研究授業および事後研究会を実施することで、目標の明確化や評価の方法、わかる授業が強く意識されるようになり、深い教材分析がなされるようになってきた。

少人数指導・習熟度に応じた授業については、昨年度の数学科の実践を受けて3年英語科でも実施されるようになり、授業に対する生徒の好感度は比較的に高い結果が出ていた。(資料2・3を参照)

習熟を図るための工夫については、各教科で生徒の実態と教科の特性を考慮して多様な取組がなされてきた。主な例として、数学科では正の数・負の数のマス計算の導入や前時の学習内容をチェックする3分間自己評価問題の実施、昼休憩や放課後の個別指導に取り組んできた。国語科では、漢字ドリルや辞典を利用した10分間の作文練習の取組を導入してきた。

学習基盤の整備の1つとして、毎日の朝の読書に取り組んだ。その結果といえるかどうか断言はできないが、多くの生徒に落ち着きやじっくりと考える姿勢が見られるようになってきた。今後も継続することで、学力向上に関わる様々な効果が期待される。

小中の連携については、各教科とも主に授業研究会を通して連携を深め、活発に意見交換がなされた。この取組を通して授業改善の意識改革が促進され、指導力の向上にかなり有効に機能したと感じている。

#### 2 ， 今後の課題

14年度は数学科の先行研究としたため、他教科の授業改善への意識改革が出遅れ

たという実態がある。また、数学科の取組も広く浅い取組となってしまったことから、14年度1月に県が実施した基礎学力調査では、各教科とも厳しい結果が現れている。本年度は、教師の意識改革および授業改善がかなり促進されてきたが、次年度も全教科で研究授業・研究会等の実践を通してさらに授業改善を加速させていきたい。

また、昨年度の基礎学力調査から明らかになったことであるが、「勉強の大切さ」を感じている生徒が他と比較してかなり低い結果が出ている。学力向上に大きく影響する部分なので、全教科・全領域で対策を講じるとともに、情報発信部会の活動を通して、保護者・地域も巻き込みながら啓発していく必要がある。

#### 、学力把握のための学校の取組

年度初めに、全国標準診断的学力検査（NRT）を5教科で実施し、学力の実態を把握し、個別指導や教科指導の改善に役立てた。

6月に学習に関する調査を行い、学習環境の改善や授業改善に役立てた。

2学期末に観点別絶対評価テストを1学年・2学年で実施し、3学期の個別指導や教科指導の改善に役立てる。（学習進捗の関係で1月中旬の実施に変更）

数学科と英語科で、7月にコース別学習アンケートを実施し、コース別学習の改善に役立てる。（3月にも実施の予定）

その他にも、定期テストや県が1月に実施した学力調査等の結果も分析して、学力の実態把握に努め、教科指導の改善を進めていく。

#### 、フロンティアスクールとしての研究成果の普及

全教科での研究の取組で、昨年度より多くの研究会・研究授業を実施することができた。時には、校区の小学校や西部地区の中学校の先生にも参加していただき、研究を深めるとともに研究成果を広めるよい機会となった。（資料1を参照）また、今年度中頃にはホームページを立ち上げ、広範囲に情報発信する予定だったが、準備が遅れたため年度内の完成を目指している。なお、今年度は県外の学校から2件の訪問があり、習熟度別学習や小中連携の取り組みについて研究成果を広めることができた。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】  15年度からの新規校  14年度からの継続校

【学校規模】  3学級以下  4～6学級

7～9学級  10～12学級

13～15学級  16学級以上

【指導体制】  少人数指導  T・Tによる指導

その他

【研究教科】  国語  社会  数学  理科

外国語  音楽  美術  技術・家庭

保健体育  その他

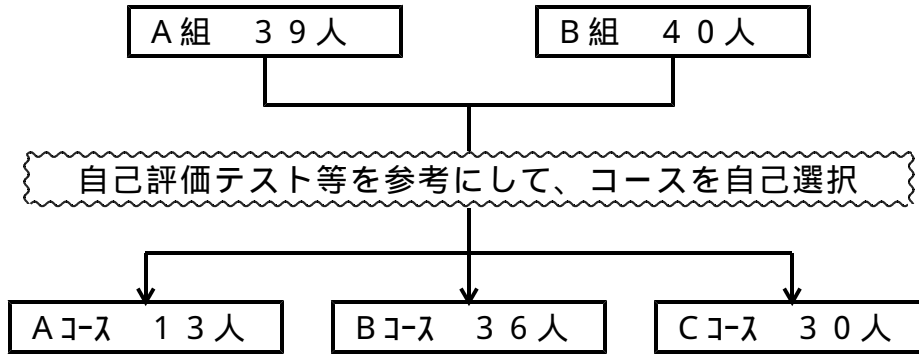
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無

(資料1) 15年度 学力向上フロンティア校内研究会

第1回	4月 2日(水)	15年度の研究についての共通理解、研修
第2回	6月 27日(金)	数学科研究授業と事後研究会及び講演 (講師)島根大学教育学部 高旗浩志 先生
第3回	8月 20日(水)	各教科、各研究部の取り組みについて、研修
第4回	10月 24日(金)	英語科研究授業と事後研究会及び講演 (講師)米子市教育委員会 富士原寿和 先生
第5回	11月 12日(水)	各教科、各研究部の取り組みについて、研修
第6回	2月 12日(木)	15年度の研究の総括と次年度の取り組み、研修
第7回	2月 27日(金)	社会科研究授業と事後研究会及び講演 (講師)山口大学教育学部 桑原昭徳 先生

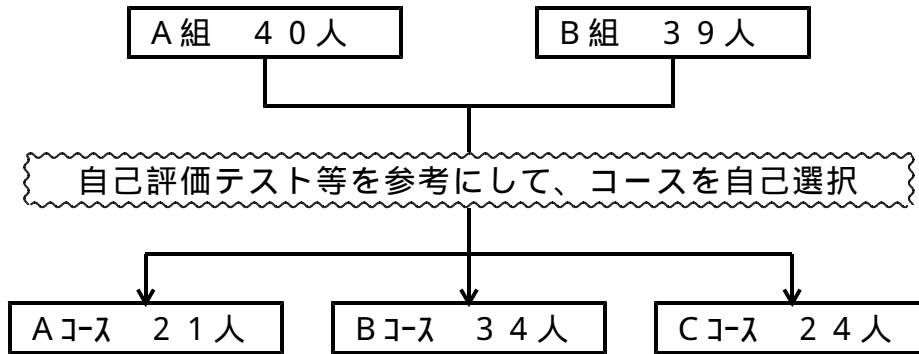
上記以外にも、小中連携による教科部会単位での授業研究会を、本校で10回開催した。  
また、校区の小学校で開催された研究会や他のフロンティアスクール指定校の研究会に、  
本校の教員が多数参加してきた。

数学科 1学年 習熟度に応じた指導



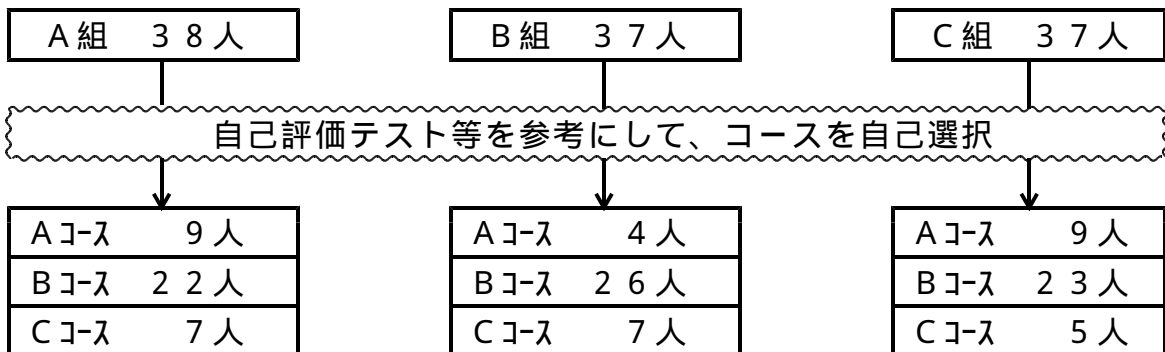
習熟度は、Aコース、Bコース、Cコースの順に高くなる

数学科 2学年 習熟度に応じた指導



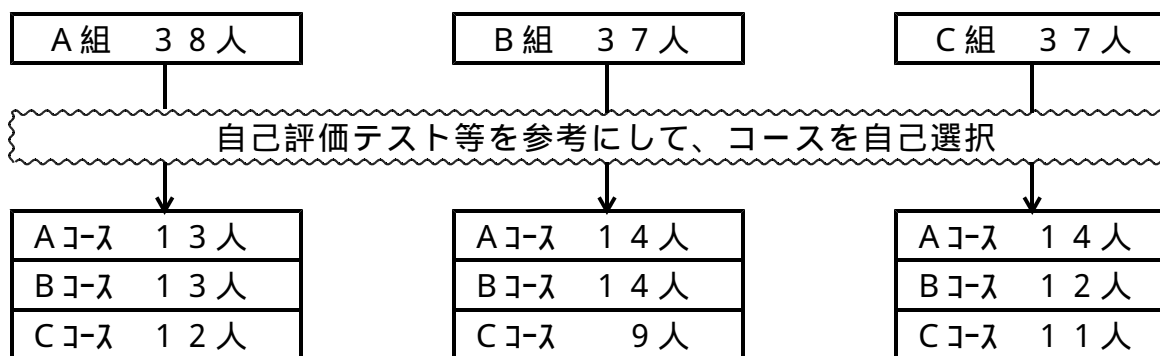
習熟度は、Aコース、Bコース、Cコースの順に高くなる

数学科 3学年 習熟度に応じた少人数指導



習熟度は、Aコース、Bコース、Cコースの順に高くなる

英語科 3 学年 習熟度に応じた少人数指導



習熟度は、Aコース、Bコース、Cコースの順に高くなる

1、教科の学習に興味・関心を持っている。

		国	社	数	理	英
1 年 全	あてはまる	6%	29%	56%	22%	55%
	あてはまることが多い	35%	41%	29%	41%	24%
	あてはまることが少ない	41%	24%	9%	31%	14%
	あてはまらない	18%	5%	5%	6%	6%
2 年 全	あてはまる	10%	25%	32%	32%	26%
	あてはまることが多い	26%	36%	36%	25%	30%
	あてはまることが少ない	57%	35%	27%	38%	36%
	あてはまらない	6%	4%	4%	5%	8%
3 年 全	あてはまる	23%	16%	34%	26%	31%
	あてはまることが多い	41%	29%	32%	28%	30%
	あてはまることが少ない	31%	40%	30%	36%	33%
	あてはまらない	5%	15%	5%	10%	7%
全 体	あてはまる	15%	23%	40%	27%	37%
	あてはまることが多い	35%	35%	32%	31%	28%
	あてはまることが少ない	42%	34%	23%	35%	28%
	あてはまらない	9%	9%	5%	8%	7%

授業形態	
1年数学	習熟度
2年数学	習熟度
3年数学	習熟度・少人数
1年英語	TT
3年英語	習熟度・少人数
他は一斉指導	

2、集中して授業を受けることができる。

		国	社	数	理	英
1 年 全	あてはまる	27%	36%	71%	32%	47%
	あてはまることが多い	42%	47%	22%	42%	35%
	あてはまることが少ない	15%	12%	5%	19%	10%
	あてはまらない	15%	5%	3%	6%	8%
2 年 全	あてはまる	19%	42%	43%	22%	33%
	あてはまることが多い	39%	42%	35%	43%	37%
	あてはまることが少ない	42%	14%	16%	32%	25%
	あてはまらない	0%	3%	6%	3%	5%
3 年 全	あてはまる	46%	21%	49%	20%	38%
	あてはまることが多い	39%	48%	41%	37%	36%
	あてはまることが少ない	11%	25%	7%	33%	19%
	あてはまらない	4%	6%	3%	10%	7%
全 体	あてはまる	32%	32%	53%	24%	39%
	あてはまることが多い	40%	46%	34%	40%	36%
	あてはまることが少ない	21%	18%	9%	29%	18%
	あてはまらない	6%	5%	4%	7%	7%

授業形態	
1年数学	習熟度
2年数学	習熟度
3年数学	習熟度・少人数
1年英語	TT
3年英語	習熟度・少人数
他は一斉指導	



3、授業で分からないところがあったとき、よく先生に質問する。

		国	社	数	理	英
1 年 全	あてはまる	10%	21%	22%	18%	22%
	あてはまることが多い	17%	22%	15%	17%	21%
	あてはまるが少ない	33%	26%	29%	32%	23%
	あてはまらない	40%	32%	33%	33%	35%
2 年 全	あてはまる	10%	9%	25%	8%	12%
	あてはまることが多い	16%	8%	19%	13%	19%
	あてはまるが少ない	32%	26%	26%	25%	31%
	あてはまらない	42%	57%	30%	55%	38%
3 年 全	あてはまる	6%	6%	19%	9%	14%
	あてはまるが多い	13%	20%	36%	13%	27%
	あてはまるが少ない	45%	37%	25%	40%	31%
	あてはまらない	36%	37%	20%	37%	28%
全 体	あてはまる	8%	11%	21%	11%	16%
	あてはまるが多い	15%	17%	25%	14%	23%
	あてはまるが少ない	38%	31%	27%	33%	29%
	あてはまらない	39%	42%	27%	41%	33%

授業形態

1年数学 習熟度  
2年数学 習熟度  
3年数学 習熟度・少人数

1年英語 T T  
3年英語 習熟度・少人数

他は一斉指導

4、少人数による授業や、学習状況に応じた授業をしてもらいたい教科はどの教科ですか。

	国	社	数	理	英	音	美	体	技
1年	28%	38%	64%	27%	65%	10%	12%	15%	23%
2年	29%	21%	56%	16%	55%	8%	9%	22%	9%
3年	21%	20%	53%	22%	54%	3%	7%	22%	9%
全体	25%	26%	57%	22%	58%	6%	9%	20%	13%

(考察)

これら結果から判断して、少人数指導や習熟度別学習、T Tの方が一斉指導に比較して、授業にのぞむ姿勢で好ましい結果を示している。全ての教科でこれらの指導形態が有効かどうかは別として、数学科や英語科のように学力差が大きくなりやすい教科では概ね有効に機能するものと考えられる。しかし、どんなに有効な指導形態でも、個々の教師に指導力がなければ、生徒にとって魅力のないものになってしまうということを忘れてはならない。